



# HEROES

# ヒーローズ

## ベートーベンを通して語る池田先生

人生は、山あり、谷あり。だが、  
今の苦闘には深い意味があると  
確信していくことだ。  
強盛な信心の一念がある限り、  
宿命も必ず使命に転じられる。

「まるで悩みそのもののようないい加減な人間、世の中から歓喜を拒まれた  
人の間がみずから歓喜を造り出す——それを世界に贈りものとする  
ために。彼は自分の不幸を用いて歓喜を鍛え出す」

池田先生といへば、ベームさんは青蒼の「心の友」だった。恩師・白城聖先生の事業再建に奔走した時は自ら鼓譟舞するため、男子部の一部隊長たる時に「運命」の反を勇気つけられた時に「運命」を聴いた。「大阪の戦い」でも旧西郷本部で「コードをかけてもらひ、元氣を鼓舞」立たせた。

第1回代議院議員の1906年10月、オーストリアを訪問した先生は、ウィーンの奥森墓地に立ち、ベートーベンの墓碑牌へ81年5月には、ハイドンショット塔にある記念館を訪れている。

池田先生が「ハイリゲン・シュタット」の遺書の  
学の後、こう筆を走らせた。「正義青年時  
代に活躍した文部省の家にいたる  
べつと、常に生き抜く意図で思ひ出  
しながら、しほここの地にたどるむ」と  
(一九〇一年五月、ハイリゲン・シュタット)

世の中から歓喜を拒まれた人間が  
自ら歓喜を造り出す。それを世界に  
贈りものとするために。

ベートーベンを評した  
ロマン・ランの言葉

生き方をしないと面白くしてしまった。ゆえに豊富であつて、権力者であつうて、無難なことをすれば、いいときがなかつた。

したことだよ」（一九八一年十二月二日、東京創価小学校第4期卒業記念講演会のスレート）  
「う訴えただこともある。  
「ペーパーベン自身、苦闘の連

賀の本部幹部会で、富士交響楽團と創価合唱団が「歡喜の歌」を披露。先生はスピー<sup>チ</sup>で「第九」を合唱することを提案した。

A wide-angle photograph of a grand musical performance. On the left, a massive choir in black and white robes fills the stage. In the center and right, a full orchestra with various instruments like violins, cellos, and brass instruments is positioned. The stage is large and curved, with a balcony visible in the background.

創価大学の第6回「第九演奏会(1996年12月)」。創立者の提案で、91年から長年にわたり行われてきた

秋社)、大木実著  
書房)、パリー・  
』平野昭・西原稔

## 第47回 ベートーベン



【引用・参考】ロマン・ロラン著『ペートーヴェンの生涯』、山敏彦訳（岩波書店）、マイナード・ソロモン編『ペートーヴェンの日記』青木やよい・久松重光訳（同）、ルイス・トックウッド著『ペートーヴェン 生涯と生涯』十田邦三郎

藤本一子監訳、沼口隆・堀朋平訳（春秋社）、大木実著  
『美しい音楽を作った人々』（さ・え・ら書房）、パリー・  
バーパー原著監修『ベートーヴェン大事典』平野昭・西原稔  
編著（中経（平凡社）ほか）

大林組

# つくるを拓く MAKE BEYOND